

健康長寿の日記念 住民福祉講座

だれもが安心して暮らせる町を目指して



福智町では、本町出身の故・皆川^{よお}ヨ子さんが世界最高齢者としてギネスブックに認定された1月29日を「健康長寿の日」として制定しました。これを記念して「第2回福智町住民福祉講座」を下記のとおり開催します！

申し込みはお早めに！

日時 **1月25日** 10:30から 15:00まで

会場 **福智町同和対策研修センター（赤池）**

- 10:30 - 開講式
- 11:10 - 講演「これからも元気で暮らしていくために」
講師 学校法人東筑紫学園九州リハビリテーション大学校理学療法科教授 橋元 隆 氏
- 12:10 - 昼食（お弁当を配布します）
- 12:50 - 獅子舞（平原青年団）
- 13:30 - 講演「おとなの文化・こどもの文化」
講師 俳優 津川 雅彦 氏
- 15:00 - 閉講式



講師プロフィール ◯ 津川^{つがわ} 雅彦^{まさひこ} 氏

昭和15年京都市生まれ、早稲田大学高等学院中退。父は日活スターの沢村国太郎、母は女優のマキノ智子、母の父が日本映画の父といわれる牧野省三、兄が俳優の長門裕之、父方の叔父が加東大介、叔母が沢村貞子、母方の叔父がマキノ雅弘監督という文字どおり芸能一家に育つ。父主宰の劇団で活躍し、5歳で映画デビュー。昭和31年、日活の「狂った果実」に主演し人気急増となる。昭和34年に松竹へ転じ「惜春鳥」などに出演、のちに東映でも活躍。昭和48年に朝丘雪路と結婚。主な出演作に映画「マノン」「別れぬ理由」「マルサの女」「忠臣蔵外伝四谷怪談」「スーパーの女」「マルタイの女」、テレビでは「濡つくし」「独眼竜政宗」「八代将軍 吉宗」など多数。平成12年にはNHK大河ドラマ「葵〜徳川三代」の徳川家康役で主演。ブルーリボン賞、日本アカデミー賞など受賞多数。平成18年に紫綬褒章受章。マキノ雅彦の名で映画監督としても活躍し、今年「次郎長三國志」を好評上映。

参加費 ◯ 500円（資料代） **手話通訳・託児あり**

対象者 ◯ 中学生以上ならどなたでも参加できます。

当日託児を希望する人は1月17日 日までに申し込みください。

申込先 ◯ お電話で下記まで申し込みください。 **先着順**

社会福祉協議会金田事業所 ☎ 22-6631 / ☎ 22-3778

社会福祉協議会赤池事業所 ☎ 28-4646

主催 ◯ 福智町・福智町社会福祉協議会 **定員500人で締め切**

町長日誌

▼わたしたちが生活していく上で欠かせないものの一つに、言葉話し言葉と書き言葉がある。もっと極論すれば、自分の思いや考えを表現する絶対的手段——それが言葉だと言ってもいいだろう。しかし、その使いかた（使われかた）によっては、受け取る側に対して、天地ほどの感情の開きを与えてしまう。もちろん、受け手の年齢や心理状態などで違いはあると思うが、▼わたしの場合も、これまで経験してきた中で、人生を支えてくれる力強い言葉もあれば、トラウマとなってしまうまでも引きずっているものもある。高校一年の春に父を亡くし、意気消沈していた時、友人から一通の手紙が届いた。その文中には、冬来たりなば春遠からじと書かれた一節があり、わたしの目を明日に向けさせてくれたのである。今でもつらいことがあると、気持ちを奮い立たせてくれる大切な宝物となっている。まさに感謝！感謝！▼逆に、受けた言葉の呪縛から抜け出せないで、自己弁護の材料にしていることもある。中学校に入学してすぐの美術の授業で、「お前は下手やの。小学一年生でもそんな絵はかかんぞ」と言った教師の一言が、絵をかきことからわたしを遠ざけてしまったのである▼どうせ発する言葉なら、人に勇気と明るさ、そして前向きな気持ちを植え付ける言葉でありたいものだ。年のはじめにあたり、自らの言葉の重みを自覚しつつ、一年を過ごしていきたいと思う。

浦田 弘二